

消化器検診 Newsletter

No. 98

発行所：日本消化器がん検診学会
関東甲信越支部
〒112-0014 東京都文京区関口 1-19-2
第2 弥助ビル 3 階
TEL / 03-3267-0678
FAX / 03-3235-7647
E-mail: kantou@jsgcs.or.jp

[日本消化器がん検診学会関東甲信越支部機関紙]

「関東甲信越支部（地方会）40 周年を迎えて」

関東甲信越地方会の 40 年の輝き

日本消化器がん検診学会
理事長
深尾 彰

このたび関東甲信越地方会が 40 周年を迎えられたとのこと、心からお祝い申し上げます。関東甲信越地方会は、当時国立がんセンター集検研究部長であられた市川平三郎先生が中心となって 1971 年（昭和 46 年）に設立され、これまで我が国の消化器がん検診のフロンティアとして燦然と輝く業績を残してこられました。その業績としては、放射線部会と保健衛生部会（当初は保健婦部会）の設立、精度管理研究班による「胃集団検診の精度管理指針」の刊行、胃がん検診専門技師制度の制定、超音波部会の設立、機関紙「胃集検通信」（現在の消化器検診 News letter）の発行など枚挙にいとまがありませんが、これらのいずれもが、現在日本消化器がん検診学会が実施している事業の先駆けとなったものであります。50 周年を 2 年前に経過した日本消化器がん検診学会が今日あるのも、関東甲信越地方会というすぐれたお手本があったからこそと改めて感謝する次第です。

ご承知の通り、平成 25 年 4 月から日本消化器がん検診学会は一般社団法人に移行致します。それに伴い、規定上支部会計も本部で一括管理とすることが求められ、独自に発展を遂げられてきた「関東甲信越地方会」も「関東甲信越支部」と名称を変更して名実ともに本学会の支部として活動していただくことになりました。これまでお手本としてきた組織を後ろに控えさせるようでおこがましいことではあります。法的な問題でもありますので、何とぞご容赦下さるようお願いいたします。また、部会という組織を持ち込むこともできなくなったため、放射線部会、保健衛生部会、超音波部会という組織も消滅せざるを得なくなり、部会会員の方は本学会に新設する一般会員に移行していただくことになりました。それに

伴って、これまでの部会委員会（現在は土亀委員長）は従事者委員会と名称を改め、総会時にフォーラムを開催する等、技師や保健師の研修機会を絶やさぬようこれまで以上に充実した企画をすることになっています。

改正されたがん対策基本計画でもがん検診は予防対策の重要な柱とされており、学会としても組織の改編を理由にアクティビティーを停滞させることは許されません。どうか関東甲信越支部もこれまで以上に輝いていただき、我々に多くの示唆を与えて下さるよう心から念願しております。

目 次

「関東甲信越支部（地方会）40 周年を迎えて」	1
深尾 彰	
高後 裕	
渋谷 大助	
芳野 純治	
山崎 秀男	
吉原 正治	
第 74 回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会を終えて	8
日本消化器がん検診学会関東甲信越支部	
超音波研修委員会 超音波スクリーニング研修講演会 2014 有明	10
第 7 回ザ・ベストイメージングコンテスト結果	12
放射線研修委員会 第 47 回放射線部会学術集会	14
第 37 回消化管造影技術講習会	16
第 10 回千葉県消化管画像づくり研究会	17
平成 25 年度代議員会議事録	18
編集後記 木村 友子	20

関東甲信越地方会 40 周年を祝して

日本消化器がん検診学会北海道支部

支部長

高後 裕

この度は、日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会が、設立以来 40 年を迎えることとなった由、おめでとうございます。日本消化器がん検診学会は、我が国で国民病である胃癌の撲滅のための集団検診に関する事業の推進とその学際的活動のために胃集団検診学会として設立され、その後、胃のみならず、大腸、肝臓、胆膵と広い領域に広げ、かつ使用する技術も、X 線診断から内視鏡、超音波診断などの画像診断技術と、便潜血反応、血清診断などの導入と、CT 検査などの新技術の開発を含め、消化器全般のがん検診に関する分野に研究活動が行われています。ことに、関東甲信越地方会は、検診活動の歴史の中でも、我が国の中心的な存在で、会員数、地方会活動のいずれにおいても抜きん出ており、日頃からそのアクティビティーには敬意を表している次第です。

北海道地方会（支部）と関東甲信越地方会との関係は深く、初代北海道支部長であった田村浩一先生、次期支部長であった有末太郎先生の時代から、両地方会は、密接な関係にありました。私自身も、研修医になって最初に耳にした言葉は、「胃集検学会」であり、間接胃二重造影検査の技術が飛躍的に向上するとともに、精検で内視鏡検査が標準となっていった時代が懐かしく思い出されます。とくに、毎年の北海道地方会では、たびたび、市川平三郎先生が来道され、その思いを熱く語られていたこと、一貫とした二重造影像による胃がんの拾い上げへの自信と、その結果に関する評価の確かさに、改めて感銘しているところです。関東甲信越地方会の活動の極めて大きな部分で放射線技師の皆様の働きが大きいことも、この 40 年の活動をみれば当然のことと理解されます。

もとより、消化器がんの検診業務では、がんの早期発見と早期治療、検診未受診者から見つかる進行がんの発見と治療の 2 つに従事することとなり、がん診療の中では、表玄関を担っていると言えます。近年の各種画像診断学、内視鏡診断学の進歩と同時に、がんの生物学的な特徴からみた、発がんの危険因子、感染と発がんの時系列、多段階の分子異常の解析、新たながん分子マーカーの開発などは、目を見張る進歩です。かつては、がんが見つかった時点から遡及的に検診フィルムを再読影してその生物学的な進展や、悪性を推し量ることが貴重な体験となっていました。今後は、それらのデータとともに、全ゲノム解析（whole genome sequencing, WGS）により、がんの発生から進展の過程、また生物学的意味づけ、治療に対する予後との関連など、多くの謎が急速に解き明かされようとしています。

このような時期になって、癌の予防につながる本学会の使命と活動意義は、さらに大きくなると思います。ことに関東甲信越地方は、多くの人口と多彩な文化圏を抱え、我が国のがん撲滅・征圧実践の第一線にあり、その指導的立場はますます重要です。貴支部のますますのご発展を祈念いたします。

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会 40 周年を祝って

日本消化器がん検診学会東北支部

支部長

渋谷 大助

日本消化器がん検診関東甲信越地方会が創立 40 周年を迎えましたことに対しまして心よりお祝い申し上げます。また、これを機に日本消化器がん検診学会関東甲信越支部として新たな門出を迎えますことに対しましても、誠に喜ばしく重ねてお祝い申し上げます。

関東甲信越地方会は日本消化器がん検診学会の支部の中でも最大の会員数を誇り、活動の量、質とも別格の規模を誇っております。特に放射線技師、超音波検査技師の活動が活発であります。日本消化器がん検診学会が一般社団法人に生まれ変わり、今までの部会会員が一般会員になり、これまで以上に一般会員が主体的に学会活動に参加することが望まれます。その点からも、学会の活性化のために関東甲信越支部の果たす役割は極めて大きいものと考えております。本学会の歴史を振り返りまして、貴支部は X 線読影判定基準の作成や胃がん検診専門技師制度の発足等、大きな貢献をしてくれました。深く敬意を表しますと共に、貴支部がこれからも本学会の発展に尽力されることを心より期待申し上げます。

東北支部におきましても支部創立 50 周年を迎え、木内喜孝東北大学保健管理センター教授会長のもと、平成 24 年 7 月 14 日（土）に仙台国際センターにて記念大会（地方会）が開催されました。特別企画として「検診の過去、現在、未来」というパネルディスカッションを行い、東北地方におけるがん検診の今までの 50 年間の総括と東北支部のこれからの 50 年間のあり方を語り合ったことは、誠に意義深いものと思います。

貴支部が「日本消化器がん検診関東甲信越地方会 40 周年記念誌」を刊行することは、只単に過去を懐かしく振り返るだけではありません。自分たちが現在まで何を成し遂げ、何を成し遂げられなかったのかを確認し、新しい日本消化器がん検診関東甲信越支部がこれから何を成さなければならないのかを明示してくれるのではないのでしょうか。

東北支部といたしましても、貴支部を見本として一般会員を重視した、より一層の支部の活性化を図ると共に、本学会のさらなる活性化に微力を尽くしたいと思います。貴支部におかれましては今後とも東北支部に対しまして暖かいご指導を賜りますことをお願い申し上げますと共に、貴支部がこれから益々ご発展されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会 40 周年を記念して

日本消化器がん検診学会東海北陸支部

支部長

芳野 純治

日本消化器がん検診学会の一般社団法人の認可に伴い、関東甲信越地方会が他支部と統一して関東甲信越支部なり、それまでの 40 年の歩みを刻む記念誌を刊行されることと、さらに関東甲信越地方会が 40 周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。また、関東甲信越の方々「関東甲信越地方会」として、検診の進歩、普及にこれまで貢献してこられたことに敬意を表します。

私共の東海北陸支部は昭和 46 年のほぼ同時期に発足し、今年で 41 年を迎えました。発足当時の詳細な資料はありませんが、学会誌によるとその当時は「東海北陸胃集検の会」と称し、年 1 回の学術集会を開催しています。東海北陸地方会の名称は第 12 回東海北陸胃集検の会（昭和 57 年）に初めて学会誌に記載されています。そして、日本消化器がん検診学会東海北陸支部の学術集会として「東海北陸地方会」が行われるようになり、「東海北陸集検の会」と「東海北陸地方会」は同時に開催され、現在に至っています。学会の名称変更と共に「東海北陸胃集検の会」も「東海北陸消化器集検の会」に、さらに「東海北陸がん検診の会」に名称を変更しており、本年 11 月には日本消化器がん検診学会第 42 回東海北陸地方会を地方会会長が第 42 回東海北陸がん検診の会の会長を併任して開催いたしました。学会の地方会組織が十分でなかった発足当時は支部の名称も統一されていなかったのが所以かもしれません。

さて、関東甲信越地方会との関わりについては私には忘れられない思い出があります。第 39 回関東甲信越地方会（平成 2 年 2 月）のシンポジウム「消化管診断の最先端を如何に集検に生かすか」（司会：白壁彦夫先生、順天堂大学名誉教授、早期胃癌検診協会理事長）に演者としてご招待いただいたことです。当地方会の会長は早期胃癌検診協会所長の池延東男先生で、私が昭和 55 年に名古屋大学から国内留学という形で当時、順天堂大学におられた白壁先生の下で胃 X 線検査の勉強させていただいた御縁からと思います。そのシンポジウムの演者には、吉田操先生（都立駒込病院外科）、神津照雄先生（千葉大学第二外科）、浜田勉（順天堂大学消化器内科）、工藤進英（秋田赤十字病院外科）、牛尾恭輔（国立がんセンター放射線診断部）、他の著名な先生方がおられ、貴重な経験になりました。

今後、「関東甲信越地方会」が「関東甲信越支部」と名称を変えられるとのことですが、これまでの歴史の上に益々発展されることをお祈り申し上げます。

関東甲信越地方会発足 40 周年祝辞

日本消化器がん検診学会近畿支部

支部長

山崎 秀男

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会発足 40 周年を心からお祝い申し上げます。

関東甲信越地方会は、昭和 46 年国立がんセンターの市川平三郎先生、笹川道三先生らが中心となり発足しました。以後癌研の淵上在彌先生が主導された保健衛生部会の活動の結晶としての「胃集検の手引き」の出版、また白壁彦夫先生の後押を得て毎年放射線部会が合宿による研修会を開催されるなど、あらゆる方面でわが国の胃がん検診を牽引してこられました。近畿支部からも多くの会員がこの合宿に参加し教育・訓練を受けました。このような方々が全国各地で胃がん検診の指導者となり胃がん検診の精度を向上させてきました。胃がん検診に従事する技師の方にとって、この研修会は撮影や読影に関する幅広く深い知識を学べる唯一無二の機会でした。このような活動は、他の地区では到底真似の出来ないものです。

胃がん検診専門技師認定制度も、関東甲信越地方会のこのような取り組みがあったからこそ成立しました。

胃がん検診にとって初めて精度管理の概念が確立された記念碑的な「胃がん検診精度管理指針」は関東甲信越地方会の保健衛生部会と放射線部会の活動が一体となって成立した渾身の作で、関東甲信越地方会が提案されたものがそのまま学会でも採用されたのは当然の成り行きです。私もこの仕事を始めた頃、淵上在彌先生が近畿支部で精度管理について講演されたのを拝聴し、以後現在までこれをバイブルのように思ってきました。

関東甲信越地方会がこれまで胃がん検診の発展に寄与されてきた大きさにあらためて敬意を表するとともに、本学会の一般社団法人移行に伴い組織改革を求められ、その組織が大きかった分大変な思いをされていることを案じておりますが、これが関東甲信越支部の新たな出発となることを祈念し、今後ともこれまで以上に全国各支部の兄貴分として我々を先導していただきますようお願い申し上げます。

今後ともお互いに、我が国の胃がん対策を担う最も重要な一員として機能すること誓い、そのための努力と研鑽を怠らないことをお約束して、お祝いの挨拶とさせていただきます。

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会 40 周年のお祝い

日本消化器がん検診学会中国四国支部

支部長

吉原 正治

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会が 40 周年を迎えられましたことをお祝い申し上げます。また、関東甲信越地方会におかれましては、40 周年を迎えるにあたり、これまでの足跡・業績を記念誌として、まとめられますことは、私どもにとりましても、これからの指針となるものであり、大変意義深い事業と感謝申し上げる次第です。

日本消化器がん検診学会本部の 50 周年記念誌の中で、関東甲信越地方会支部長林學先生による記載をみさせていただきますと、「関東甲信越地方会の発足は市川平三郎国立がんセンター集検研究部長（当時）が中心となり、同部の笹川道三医長らの尽力で立ち上がったもので、昭和 46 年 2 月 5 日、第 1 回の関東甲信越地方会が開催され・・・（要約）」とあります。関東甲信越地方の学術集会の開催は、本年 9 月で既に 72 回に及んでおられます。この 40 年間における開催回数は他支部に比べ、圧倒的に多い回数です。また、研修会も、他支部にない形のものなど、活発に活動しておられます。学会事業の主たる活動としての学術大会、教育・研修の内容からみましても、学会の中心的な役割を担ってこられた人材、施設の層の厚さを改めて感じております。

また、私個人的には、JDDW2008 として、第 46 回日本消化器がん検診学会大会を東京の地で担当させていただきました。あわせて、第 30 回部会研究会総会を林學担当理事、木村俊雄実行委員長のもと開催いただき、同地方会員諸氏の皆様のご尽力・ご力量には敬服して参ったところです。

さて、国民の 3 人に 1 人ががんで亡くなる我が国における予防対策の重要性は改めて申すまでもなく、本学会がその発展をリードしていく必要があります。今後ますます、検査・診断の技術向上とともに、がん検診の科学的な検証、実施のマネージメントに力を注ぐことで、受診率も精度も高いがん検診が継続できるものと思います。消化器がん検診に関する学術の進歩、正しい検診の普及、そして、広く人類の福祉に貢献するという本学会の目的のために、関東甲信越地方会の皆様共々、私たちも邁進せねばなりません。ここに関東甲信越地方会の 40 周年をお祝いたしますとともに、新たな法人体制でのスタートに向けて、一層のご発展を祈念いたします。

第 74 回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会を終えて



会長 上甲 宏
(前水戸市医師会会長 上甲医院院長)

この度は、平成 26 年 8 月 31 日（日）に茨城県メディカルセンターで開催致しました第 74 回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会に多数ご参加いただき、誠にありがとうございました。

地方会として初めての日曜日開催、そして、会場となった茨城県メディカルセンターは駅から離れており、不便なアクセス条件での開催でしたのでご参加頂けるかどうか心配でしたが、508 名（演者、司会など招待者 46 名含）の参加、市民公開講座は 354 名の参加があり、ほっと胸を撫で下ろしています。ご発表・ご司会の皆様、ご参加の皆様には心より御礼と感謝を申し上げます。

予算の関係上、学会運営代行会社に依頼せず、手作りで運営を行ないました。これも地方会ならではの、水戸市医師会事務としての業務と並行しながらであり、スタッフには苦勞を掛けました。不慣れな部分が多く、細かな対応も不十分であり、ご不便をおかけしたこともあったかと思いますが、何卒ご理解、ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

今回の学会に目を向けると、特別講演（市民公開講座）・ランチョンセミナー・イブニングセミナーから、これからの胃がん検診は背景粘膜の判断が最重要課題であることもわかりました。シンポジウムでは活発な意見が交わされ、今まさに、胃がん検診は過渡期なのだということを実感いたしました。教育講演では大腸がん検診における精検受診率の重要性を再認識いたしました。

水戸市も、模索しながらではありますが、ABC リスク検査と内視鏡を検診として導入いたしました。今後その結果を分析し、胃がん検診のあり方を水戸市と協議しながら進めていきたいと考えております。

第 74 回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会で得た経験が少しでも地域医療への貢献となり、今後の検診にいかされることを期待いたしております。

最後に、次回の山梨県で平成 27 年 8 月 29 日に開催される第 75 回地方会の成功を願いつつ、皆様のますますのご発展を祈念し、御礼の挨拶とさせていただきます。

この度は、誠にありがとうございました。



前処置から画像診断支援まで

人々のすこやかな毎日を願い、
より適確で
より安心な診断ができる
信頼ある製品づくりを。

新規取扱い商品

大腸・CT用検査食
FG-two☆
エスピー食品と共同開発。
味とボリュームにこだわった、簡単調理の検査食。

遠隔画像診断支援サービス



G.I. Lab株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-1
KIMURA BUILDING 7F
TEL : 03-5283-0981

検診に特化。
胃X線を始め、胸部X線、
マンモグラフィー、CT・
MRIなど、多様な画像を
お取り扱いします。

薬価基準収載

処方せん医薬品 注意-医師等の処方せんにより使用すること

【硫酸バリウム製剤】

■ 上部消化管X線造影剤

バリテスター[®] A240散

バリオゲン[®] SHD

■ 注腸用X線造影剤

エネマスター[®] 注腸散

■ 消化管X線造影剤

バリオゲン[®] HD

バリオゲン[®] デラックス

【炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤】

バリオゲン[®]

ウムブラMD

■ X線診断二重造影用発泡剤

バリエース[®] 発泡顆粒

■ 胃内有泡性粘液除去剤

バリオゲン[®] 消泡内用液 2%

(ジメチコン内用液)

■ 緩下剤

ファースルー錠 2.5mg

(ピコスルファートナトリウム錠)

※ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等詳細は、添付文書をご参照下さい。

伏見製薬株式会社

● 本社／香川県丸亀市中津町1676 TEL 0877-22-7284 FAX 0877-22-6284

● 資料請求先 営業企画部／東京都中野区弥生町2-41-5 TEL 03-5328-7801 FAX 03-5328-7802

仙台営業所／TEL 022-295-5667 東京営業所／TEL 03-5328-7801 名古屋営業所／TEL 052-732-8555

大阪営業所／TEL 06-6160-2431 中四国営業所／TEL 082-509-2431 福岡営業所／TEL 092-413-4107

超音波スクリーニング研修講演会 2014 有明

会 期：平成 26 年 12 月 13 日（土）

午前 9 時 25 分～午後 4 時 50 分

*開場・受付開始:8時30分から

会 場:TOC 有明ウエストタワー 20 階コンベンションホール WEST GOLD 20

東京都江東区有明 3-5-7

*埼京線・りんかい線『国際展示場』駅より徒歩3分

*ゆりかもめ『有明』または『国際展示場正門』駅より徒歩4分



参加費：5,000 円 事前登録不要

主 催：特定非営利活動法人 超音波スクリーニングネットワーク

共催：日本消化器がん検診学会／日本総合健診医学会

後援：日本超音波検査学会／超音波検査法フォーラム

日本臨床衛生検査技師会／日本診療放射線技師会

東京都臨床検査技師会／東京都診療放射線技師会

神奈川県臨床検査技師会／神奈川県放射線技師会

全国労働衛生団体連合会

問合せ：関東中央病院 臨床検査部（担当：山田清勝）

E-mail kensa.gazou@kanto-ctr-hsp.com

*超音波検査士更新 5 点が付与されます。

*ランチョンセミナーで軽食（800食）を用意しています。

*超音波関連の書籍展示販売を行います。

***会場内でのビデオ撮影・写真撮影は禁止致します。**

プログラム テーマ：『ステップアップに必要な知識』

9:25 **開会の辞** 理事長 桑島 章

9:30～10:15 **胆道 超音波所見の判定基準を把握する』**
講師：関口 隆三（東邦大学医療センター大橋病院）
司会：若杉 聡（亀田総合病院）

10:30～11:15 **『腎・尿路 重大所見を見逃さないコツ』**
講師：桑島 章（PL 東京健康管理センター）
司会：森 秀明（杏林大学医学部附属病院）

11:30～12:15 **『脾臓 カテゴリー分類を活用する』**
講師：岡庭 信司（飯田市立病院）
司会：伊藤 正範（日本健康管理協会 新宿健診プラザ）

12:45～13:30 **ランチョンセミナー**
『基礎と臨床の接点 US スクリーニングに必要な超音波の基礎』
講師：佐々木 博（国際医療福祉大学）
司会：竹原 靖明（横浜鶴ヶ峰病院 健康管理センター）

14:00～14:45 **『消化管』**
講師：畠 二郎（川崎医科大学附属病院）
司会：小野 良樹（東京都予防医学協会）

15:00～15:45 **『乳腺』**
講師：何森 亜由美（高松平和病院）
司会：高田 悦雄（那須赤十字病院）

16:00～16:45 **『肝臓』**
講師：飯島 尋子（兵庫医科大学病院）
司会：桑島 章（PL 東京健康管理センター）

16:45 **閉会の辞** 顧問 竹原 靖明

— 2014年 第7回 ザ・ベストイメージングコンテスト — 結果報告 —

第7回ザ・ベストイメージングコンテストは平成26年8月31日、上甲宏先生（前水戸市医師会・上甲医院院長）を学会長とした第74回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会の超音波研修委員会学術集会において開催され、皆様のご協力のもと盛会裏に終了することができました。

今回も、日常に超音波検査の中で遭遇した症例の中から、自慢のベストショット20症例の応募をいただき開催されました。審査は例年と同様、学術集会参加者の投票により、得票の多かった作品から専門医の先生方の審査意見も踏まえて、各賞を決定しました。その結果、最優秀賞1点、優秀賞1点、特別賞1点が決定しました。

コンテストも回を重ね、参加施設も多くなってまいりましたが、今後さらに多くの施設の皆様、特に出張検診、人間ドック等で活躍されている方々にも参加いただきたいと思います。本コンテストの目的は超音波検査のレベルアップも目指しておりますので、多忙な検査の中でもベストイメージを意識し、走査部位・装置の条件等を決定し記録しただければ診断能の向上にもつながると思います。そして、一年間撮りためた症例の中からベストの1枚を選んで応募していただければコンテストもさらに盛り上がりますのでご協力ください。

応募して頂きました皆様および当日審査に参加して頂きました皆様ありがとうございました。御礼申し上げます。次回も多数のご応募よろしくお願い致します。

横浜総合健診センター 中村 稔
早期胃癌健診協会 山本 美穂

最優秀賞

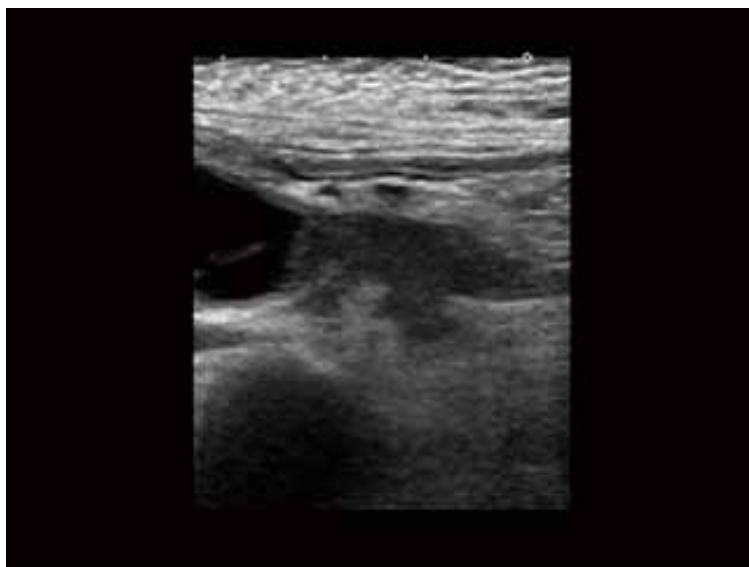


記録者：北浦 幸一
所 属：亀田総合病院
装 置：東芝 Aplio 500
周波数：6.0 MHz
症 例：胃癌、深達度 MP

記録者コメント

筋層表層まで浸潤している所見が描出できました。

優秀賞



記録者：岩下 和広
 所 属：飯田市立病院
 装 置：東芝 Aplio 500
 周波数：8.0 MHz
 症 例：下部胆管癌

記録者コメント

下部胆管に腫瘤を認めた為、高周波リニアプロープで 観察すると、胆管後壁の高エコー層の断裂と、膵臓に浸潤する胆管癌を明瞭に描出できました。

特別賞



記録者：大澤 亮太
 所 属：横浜総合健診センター
 装 置：東芝 Xario XG
 周波数：5.0 MHz
 症 例：IPMN

記録者コメント

主膵管に連続している拡張した分枝膵管がよく観察できました。

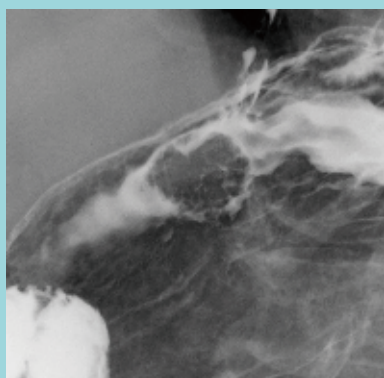
開 催 の お し ら せ

日本消化器がん検診学会 関東甲信越支部 第47回放射線部会学術集会

開催日程：平成27年3月7日（土）

会 場：ホテル ニューオータニ長岡 NCホール

新潟県長岡市台町2-8-35 TEL0258-37-1111



大会テーマ

「いま、国民のためになすべきこと」

- ・ 一般演題 ・ 教育講演 ・ シンポジウム
- ・ 市民公開講座 ・ 症例検討会
- ・ 大腸CT実践講座 ・ ハンズオン



大 会 長 宮田 和則（魚沼地域胃腸検診協議会）
実行委員長 船登 正明（新潟県労働衛生医学協会）

ホテルニューオータニ長岡

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部 第47回放射線部会学術集会

テーマ「今、国民のためになすべきこと」

関東甲信越支部放射線部会では、毎年学術集会を関東甲信越10都県の持ち回りで開催しております。今年度は新潟県で開催いたします。

近年、胃がん検診は選択できる時代に入っているようです。しかし、これらの検査が国民のためになるのか、胃がん死亡率減少に寄与できるのか、検査の体制として現状にあっているのかなどを考え、今後胃X線検診に何が必要なのかを考える学術集会にしたいと準備を進めております。

また、今後普及が期待されている大腸CT検査の導入から読影及びワーステーション体験まで、大腸CTの実践講座を開催いたします。今回、新潟県では初めてとなる総合的実践講座となります。検査に必要な知識や情報を提供し、ハンズオンも計画致しましたので、是非ご参加ください。お待ちしております。

一般演題募集・ハンズオン事前登録募集

一般演題の公募とハンズオン事前登録の詳細はホームページをご覧ください。

締め切り：一般演題募集11月末日 ・ ハンズオン事前登録 1月末日予定

放射線部会HP：<http://www.jsjgcs-kanto-x.org>

プログラム(案)

時間	NCホール	時間	雪 椿
8:50	開会		
9:00	一般演題		大腸CT関連プログラム
10:30	教育講演 「胃がんX線・病理対比 ～混在型癌に挑む～」		※ハンズオン開始時間変更有り
12:00	ランチョンセミナー 大腸CT用炭酸ガス注入器の特徴(案)	12:00	世話人会
13:00	部会総会 ・部会報告 ・表彰	13:00	大腸CT実践講座Ⅰ 導入から撮影まで(案)
13:30	市民公開講座(参加者合同企画) ピロリ菌と胃がんについて(案)	13:50	大腸CT実践講座Ⅱ CTC画像の読影(案)
14:30	シンポジウム 「いま、国民のためになすべきこと」 「リスクを考慮した効率的・効果的な胃がん検診 を目指して」	14:30	ハンズオン準備
16:00	症例検討会 背景粘膜を加味した読影(案)	15:30	ハンズオン ワークステーション体験(事前登録30名)
17:00	閉会		
17:30	交情報交換会		

※ プログラム(案)変更内容はホームページでご確認ください。

放射線部会HP：<http://www.jsjgcs-kanto-x.org>

第 37 回 消化管造影技術研修会のご案内

主催 日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会

後援 日本消化器画像診断情報研究会

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会では毎年、消化管造影検査に携わる放射線技師を対象に、消化管造影技術研修会を開催しています。この研修会は、検査中に異常を素早く判断できる知識と、関心部位の適切な表現を可能とする造影技術及び、読影法の習得を目的として実施しています。各講師陣による内容の深い講義及び持参画像検討会と技術指導は毎回多くの受講生より好評を得ております。この機会に是非受講していただけますようご案内申し上げます。

記

〔開催期日〕平成 27 年 1 月 30 日（金）～2 月 1 日（日） 2 泊 3 日

〔研修会場〕日本青年館ホテル 〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘 7-1 Tel 03-3401-0101

〔受講資格〕消化管造影検査に係わりのある方ならどなたでも受講できます。

〔受講料〕日本消化器がん検診学会一般会員 A・B 35,000 円／非会員 50,000 円

今年度より合宿制は廃止しましたので、宿泊については各自での手配をお願いします。

開催の詳細については関東甲信越支部放射線部会ホームページ（<http://www.jsgccs-kanto-x.org/>）にてご確認ください。

消化管の診断に

処方せん医薬品

X線造影剤〈硫酸バリウム製剤〉

◇パウダー製剤

硫酸バリウム散 99.1%「共成」	バリトップHD
ネオバルギンEHD	バリブライトP
ネオバルギンUHD	バリブライトCL
ネオバルギンHD	バリコンクMX
	バリブライトLV

◇ゾル製剤

バムスターS200	バリトップゾル150
バリトップ120	バリブライトゾル180

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

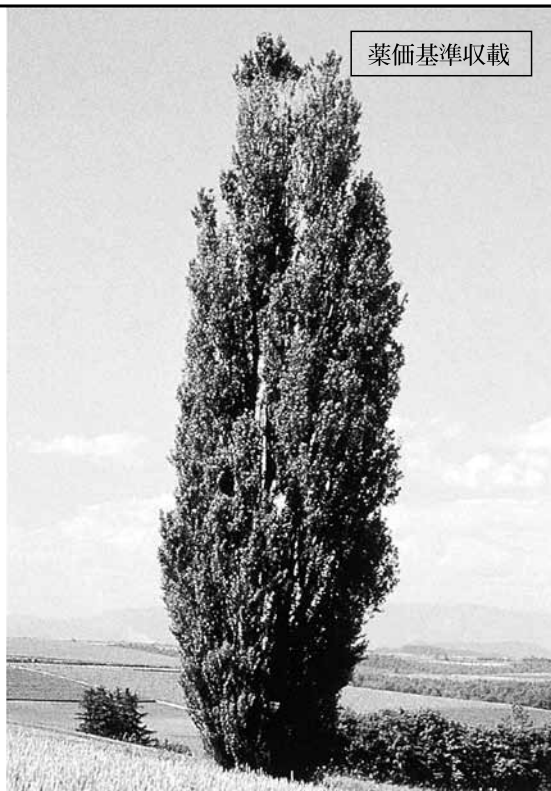
※注意—医師等の処方せんにより使用すること

発売元 **KAIGEN カイゲンファーマ株式会社**

大阪市中央区道修町二丁目5番14号〔資料請求先 商品企画部〕
<http://www.kaigen-pharma.co.jp>

※平成25年4月より株式会社カイゲンは
カイゲンファーマ株式会社に社名変更
いたしました。

薬価基準収載



第 10 回千葉県消化管画像づくり研究会開催のご案内

千葉県消化管画像づくり研究会

代表世話人 坂本 弘一

下記のとおり第 10 回千葉県消化管画像づくり研究会を開催いたします。

当研究会は当時千葉県内に消化管の学術集会がなかったことから、平成 17 年に県内の放射線技師により結成されました。そして千葉県内の消化管造影精度の底上げを目指し、初心者にもわかりやすく基礎も学べるような研究会を行っています。

千葉県内外問わず、すでに消化管造影に取り組んでいる方はもちろん、これから取り組もうとされている方や興味をお持ちの方はどうぞお気軽にご参加ください。

なおこの研究会は日本消化器がん検診学会認定「胃がん検診専門技師」資格更新単位が 2 単位付与されます。

記

期 日：平成 26 年 11 月 29 日（土）

13：30 ～ 17：00

会 場：公益財団法人 ちば県民保健予防財団 講堂

千葉県美浜区新港 32 - 14

JR 千葉駅または JR ちばみなと駅から巡回バスあり

参加費：500 円

プログラム

I. 13：30 ～ 14：10

メーカー講演：堀井薬品工業 飯山 雅巳

II. 14：20 ～ 15：20

教育講演：東京都がん検診センター 山里 哲郎先生

III. 15：30 ～ 17：00

症例検討会：アンサーパット方式 カイゲンファーマ（株）共催
(2 症例)

以上

平成 25 年度 日本消化器がん検診学会関東甲信越支部 代議員会 議事録

日 時：平成 26 年 3 月 26 日（水） 午後 18 時 00 分～ 20 時 00 分

場 所：東京八重洲ホール 301 号室

出席者：石川勉 今武和弘 入口陽介 生方英幸 小川敬子 岡田義和

斎藤洋子 櫻井諭 鈴木康元 関本宏二 鶴田恭央 鳥海修 難波美津男

藤田昭 本田今朝男 見本真一 宮田和則 山口和也 依田芳起

議 題 1. 第 77 回地方会 会長候補について

2. 平成 26 年度関東甲信越支部事業計画（案）報告について

3. 平成 26 年度関東甲信越支部予算（案）報告について

4. 地方会予算について

5. その他

1. 第 77 回地方会 会長候補について

石川支部長より、輪番により第 77 回開催は栃木県開催の報告がなされ、承認された。

2. 平成 26 年度関東甲信越支部事業計画（案）報告について

入口委員長より今年度の地方会は 8 月 31 日に水戸市医師会の上甲先生を会長として、消化器がん検診における地域開業医の役割をテーマにし開催されることが報告された。

補足として斎藤委員より、診療医の都合を考慮し日曜日開催とした報告がなされた。

続いて、超音波研修委員会の鳥海委員より 26 年度は例年通りのセミナー、研修会の他に「超音波に親しむ会」を 2 回開催する報告がなされた。

続いて放射線研修委員会の宮田代表よりセミナー、勉強会、研修会を例年通り行う予定、学術集会を 2015 年 3 月 7 日に新潟で開催予定と報告がなされた。

3. 平成 26 年度関東甲信越支部予算（案）報告について

入口委員長より予算では 26 年度は赤字となるので支出を抑える必要があると報告がなされた。

保健衛生研修委員会代表の小川委員より、印刷製本費を予算より 50 万円減らし 80 万の予算で対応可能と報告がなされた。石川支部長より謝辞が述べられた。

石川支部長より平成 26 年度の予算は赤字となっているとの報告があり、削減可能な部分についての審議に入った。

25 年度に支払われた謝金が約 400 万円である報告がなされ、26 年度の謝金支払について審議に入った。鈴木委員より、依頼する講師等へ事前は無報酬である旨を了承いただければ問題ないと思う、との意見が出され、その他異論がなく当学会員への謝金支払中止について承認された。

また、石川支部長より謝金支払中止についてホームページ上で会告する旨、説明がなされた。

4. 地方会予算について

斎藤委員より平成 26 年 8 月 31 日水戸市開催の第 74 回地方会では学会員に対する謝金は行わないと報告がなされた。ランチョンセミナー、イブニングセミナーは共催で行うとの事で報告がなされた。

5. その他

ニュースレターについて

岡田委員より編集委員の動きが止まっている為に発行が頓挫しているとの報告があった。

石川支部長より、ニュースレターは情報発信源となっているので編集委員で今後の進め方について協議していただきたい旨、提案があり継続審議となった。

次期支部長の選考について

石川支部長より残り任期が 1 年である報告がなされた。

8 月開催の代議員会にて正式決定予定。

第 75 回地方会について

依田委員より 8 月 29 日土曜日に山梨県にて開催されることが報告された。

以上をもって、予定の議事を終了し、平成 25 年度日本消化器がん検診学会関東甲信越支部代議員会を閉会した。

平成 26 年 3 月 26 日

編集後記

四季折々の変化に富み、山や緑、川や海など豊かな自然に囲まれた日本、しかしその一方で、この美しい自然は、時として私達に災害をもたらす厳しい自然へと姿を変える。この夏、各地に大きな被害をもたらしたゲリラ豪雨、山くずれ、地滑り、台風・・・連日のように報道された惨劇に、私達、人間は何をなすべきだろうか。被災地の一刻も早い復興を心からお祈りいたします。

今号は、関東甲信越地方会 40 周年に際し、各支部長から頂戴した祝辞を掲載いたしました。先人たちの熱い情熱と弛みない努力の末に、今日の「日本消化器がん検診学会関東甲信越支部」の存在があることを、忘れてはいけない、今後も継承していかなければならないことを再確認いたしました。去る 8 月 31 日には、第 74 回関東甲信越支部地方会が、「消化器がん検診における地域開業医の役割」をテーマに、茨城県水戸市で開催され、多数の先生方が参加されました。日常診療に活かせる情報交換・提供ができたことと思います。Newsletter では、今後も会員の皆様に有効に活用していただけるよう、タイムリーで充実した内容にしたいと考えております。皆様からの投稿も、よろしくお願いします。

公益財団法人ちば県民保健予防財団

総合健診センター 検査部 木村友子

■編集委員会■

編集委員長 山口 和也

編集委員 小田 丈二 岡田 義和 神宮宇 広明 山本 美穂 石井 崇雄
木村 友子 渡邊 綾子

(非売品)